

広島二葉の里地区における歴史資産等の地域資源を活かした緑地・公園づくり

独立行政法人 都市再生機構 西日本支社
都市再生業務部 広島都市再生事務所
西 博和 磯崎 正慶

1. はじめに

二葉の里地区土地区画整理事業（以下「本事業」という。）の施行地区（以下「本地区」という。）は、中四国最大のターミナル駅であるＪＲ広島駅北側に位置し、東西約０．７km、南北約０．５kmの区域である。地区内南側を都市計画道路常盤橋若草線が東西方向に走り、地区中央部には広島高速道路公社が整備する広島高速５号線が南北に通過し、地区東側は、事務所等を含む業務施設を中心とした既成市街地、地区北側及び西側は住宅を中心とした既成市街地に囲まれた、約１３．８haの地区である。

明治中期以降は本地区を含めた広い範囲に東練兵場や騎兵第五連隊等軍施設が置かれており、終戦後本地区は国有地となり、その大部分をＪＲ西日本（旧国鉄）が借地し、事務所や鉄道病院、官舎などの関連施設として利用されていたが、平成１７年７月までに一部を除き更地化、国有地に返還され低未利用な状況となった。

平成２２年１月、土地区画整理事業の都市計画決定が行われ、平成２２年７月に（独）都市再生機構（以下「UR」という。）

が事業計画認可を得て、現在平成２５年度末の換地処分に向け工事及び手続きを行っているところである。

本事業は、鉄道を利用した国内の主要都市との連絡に加え高速道路による広島空港とのアクセス性の良い立地条件を有した本地区において、都市計画道路等の整備と国有地を含む低未利用地等の土地利用の転換を行うことにより、広島市の陸の玄関にふさわしい健全な市街地の形成を図ることを目的としている。また、

その一方で、地区の北側には、広島市を代表する歴史文化資源としての寺社仏閣が立ち並び、市民に広く親しまれている「二葉の里歴史の散歩道」に面していることから、地区内に東西約７００mの帯状の緑地及び街区公園の整備を計画している。



図１ 位置図（広域）



図２ 土地利用計画図

2. 二葉の里の歴史

二葉山の麓に位置する鶴羽根神社が鎌倉時代創建の椎木八幡宮を前身と伝えられ、広島東部の総氏神として広く崇敬されているほか、菅原道真が大宰府に下る途中に立ち寄った地とされる尾長天満宮が古くからこの地に立地していた。また、天正 19（1591）年に広島城が築城された以降は、広島城の鬼門に位置することから毛利輝元の生母妙寿院の菩提寺の明星院や、浅野第 2 代藩主である光晃（みつあきら）造営の広島東照宮など多くの寺社・仏閣が建立されており、広島城や地域と密接に係りながら歴史が育まれてきた地域である。これら地区北側に立地する寺社とともに、広島市唯一の国宝である不動院金堂を含め、牛田新町～矢賀駅までの間に点在する、由緒ある神社・仏閣・史跡などを結んだコースが「二葉の里歴史の散歩道」である（注）。



図3 二葉の里歴史の散歩道散策マップ

平成 12 年には散歩道沿線の社寺や地域代表、公募委員の方々に「二葉の里歴史の散歩道ブラッシュアップ研究協議会」が結成され、同会と区役所が協働しながら楽しい散歩道づくりに向けて案内板の設置等様々な取り組みを行ってきている。また、平成 14 年度に、街道などの歴史文化的資源を活かした街づくり・道づくり等の地域づくりを支援する『夢街道ルネサンスモデル地区』に認定、さらに平成 16 年には「美しい日本の歩きたくなるみち 500 選」のコースにも選定されている。これらに併せて平成 17 年、ボランティアガイド養成講座の受講生の方々により「二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイドの会」が結成、ガイド活動を本格的に開始し、平成 24 年から原爆の日とあわせて開催される「夏の夜、祈りと平和のタベ」などにより市民や観光客に広く知られるようになっていく。

（注）原爆により爆心地から半径 2km 以内のほとんどの家屋が全焼全壊したが、本地区周辺の社寺は約 2～3km の距離にあり大きな被災を受けるも全焼全壊は免れ、多くの社寺が救護所となった。

3. 二葉の里地区の緑地・公園整備

(1) 上位計画等での位置づけ

「都市再生緊急整備地域（広島駅周辺地域）の地域整備方針」（平成 15 年 7 月、都市再生本部）、「ひろしま都心ビジョン」（平成 23 年 7 月、広島市）など上位計画において、「二葉山や社寺など自然や歴史性に配慮した都市空間を形成する都市開発事業の促進」、「情緒ある歩行者空間や緑

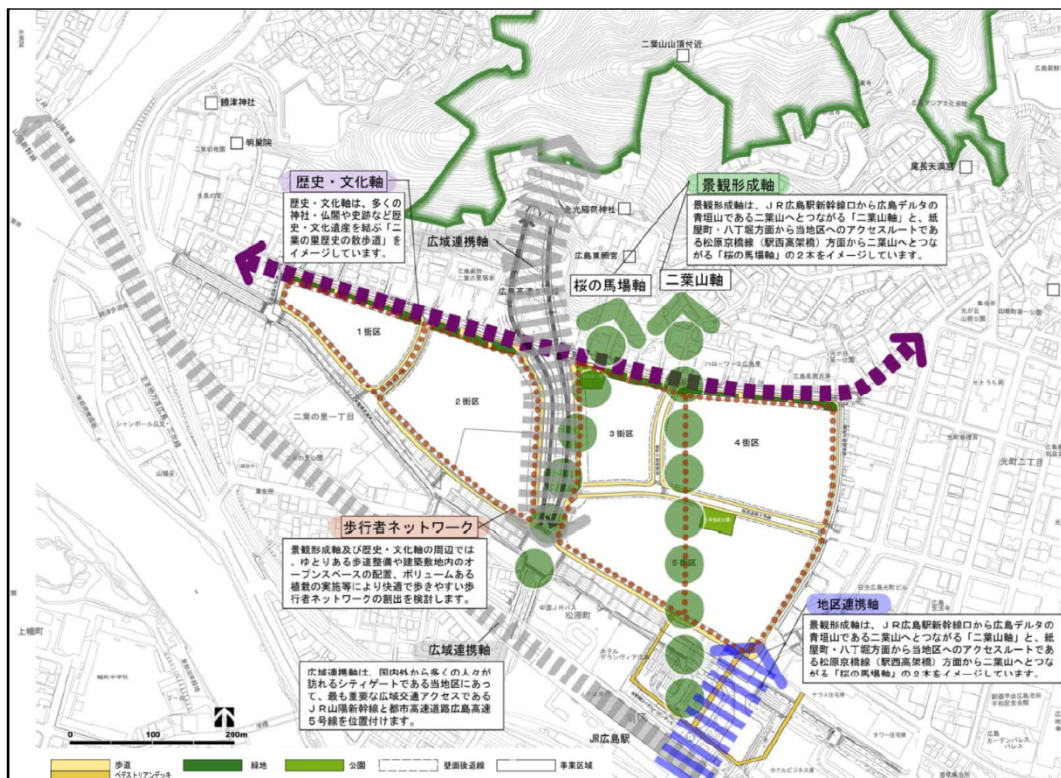


図4 まちの骨格のイメージ

地の整備」、「沿道における建築物の景観誘導や敷地の緑化・修景などによる歴史の散歩道の雰囲気向上」などに取り組むことが記載されている。

(2)「二葉の里地区まちづくりガイドライン」による沿道における建築物の景観誘導等

本地区は、地権者である財務省中国財務局、JR 西日本、地元行政機関の広島県、広島市、土地区画整理事業の施行者である UR の 5 者で「二葉の里地区まちづくり推進協議会」を設置し、まちづくり基本計画の実現に向け、関係者が連携しながら事業を進めている。また、平成 22 年 7 月の区画整理事業の事業計画認可にあわせ、同協議会構成メンバー 5 者が主体となってエリアマネジメント活動を推進するための「広島駅新幹線口エリアマネジメント推進協議会」を設置し、平成 23 年 2 月、本地区にふさわしいまちづくり誘導の指針となる「二葉の里地区まちづくりガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を策定している。ガイドラインにおいて、歴史の散歩道の沿道は「歴史・文化軸」として位置付けられ、

- 歩道とオープンスペースの一体的な緑化等による、歴史の散歩道の情緒ある雰囲気づくり
- 歴史・文化遺産と調和した街並みの形成

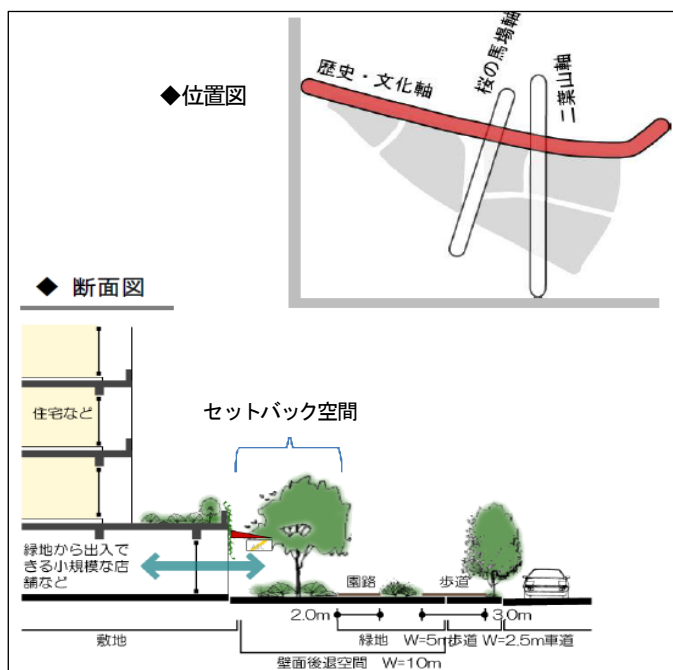


図5 歴史・文化軸の整備イメージ（断面）

を行うこととされており、隣接する建物施設用地では、開発事業者等が最低限守らなければならない遵守事項として、歩道及び緑地と建築物のセットバックにより生み出される空間において、一体的なオープンスペースを確保しなければならないとされている。ガイドラインに基づく開発調整は都市計画手続きと連動しており、遵守事項が守られないときには、地区整備計画で一定限度に抑えられている容積率を緩和することができず、緑地と民地を一体として空間整備することが担保されている。

(3) 緑地・公園の計画段階の取り組み

本地区の緑地・公園が地域の方々に親しまれ、地域資源や地域特性を活かした新しい賑わいの空間となるよう、周辺町内会の方々と二葉の里歴史の散歩道を舞台に活動する NPO 法人の方々の参画を得て、広島市とともにワークショップ方式による緑地・公園検討会（以下「WS」という。）を開催した。

WSは、平成23年10月から12月にかけて計4回開催した（図6「WSの様子」、図7「イメージスケッチ」参照）。

特に、最終回では、整備後の管理、運営面のアイディア、課題といったソフト面についての意見交換が行われるなど、緑地・公園への期待、不安が寄せられた。また、終了後、WSについての感想、意見についてアンケート調査を実施したが、WSに対し、「意見交換や意識共有が図れた」、等の良い評価や緑地・公園づくりをはじめとしたイベントへの参加マインドが高いことも確認された一方、「検討範囲が緑地・公園に限定されており不満」といった声も寄せられた。



話し合った内容や計画テーマ、空間の特徴を発表しました。



まちづくりや緑地・公園の将来像について各班で様々な意見が出されました。また写真カードを使って、緑地・公園の特徴を具体的にイメージ化しました。



イメージ写真などを用いて整備イメージをふくらませました。



100分の1の全体模型で具体的なイメージを共有しました。

図6 WSの様子

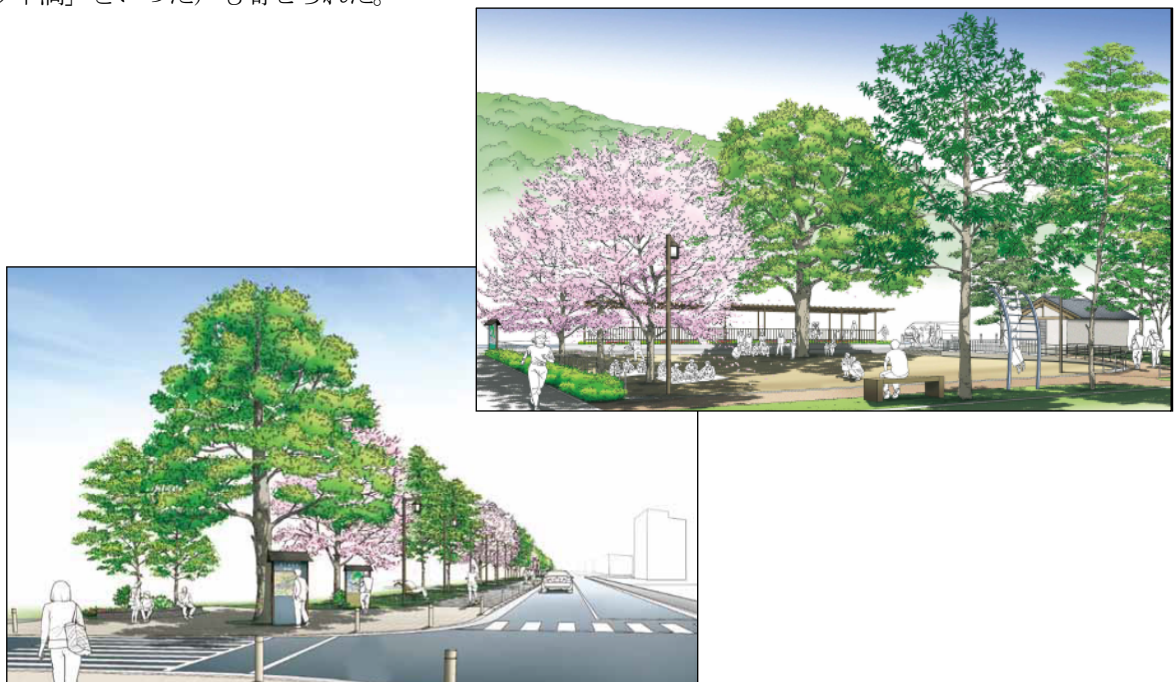


図7 イメージスケッチ（WSでとりまとめた計画案をもとに作成）

なお、WS の成果については、アンケート調査の結果報告とあわせてリーフレットにとりまとめ、参加者の皆様へ送付、共有させていただいた（図8「広島二葉の里地区緑地・公園検討会（ワークショップ）の概要」参照）。



図8 広島二葉の里地区緑地・公園検討会（ワークショップ）の概要

（4）緑地・公園の工事段階から開園に向けての取り組み

計画段階のみならず工事段階から開園に向けても地域資源、地域特性を最大限に活かすための取り組みを広島市と協働で以下のとおり進めている。

【実施済】

①シリブカガシ里親イベント（平成 25 年 3 月実施）

平成26年3月の開園イベント時に記念植栽する予定のシリブカガシ（注）の苗木を1年間育てる里親になっていただくためのイベントとして、地区周辺の方々の参加を得て実施した。

（注）シリブカガシ：地区北側に近接する二葉山南麓には日本最大の群生地（絶滅危惧群集に指定）があり地域のシンボリックな存在。果実はドンクリで底部がへこんでいることからこの名がついている。

【準備中】（平成 25 年秋～平成 26 年 3 月）

①被爆2世樹木を街区公園に移植

市内の公共事業により伐採されることとなった被爆2世のクスノキ（注）を地区内の緑地等に移植する。



シリブカガシについて学びました。



二葉山で採取したドングリから育てた苗木を鉢植えました。



1年間の里親としての苗木の育て方を習いました。



1年後の苗木の成長が楽しみです！

図9 イベントの様子

②NPO 法人が育成する桜の苗木を緑地に移植

東照宮の参道沿いに原爆で焼失するまで存在していた桜並木の復活をめざし活動する NPO 法人「二葉の里に桜並木を復活させる会」が育成している桜苗木（原爆投下後の「黒い雨」を浴びたとされるオオシマザクラや被爆したソメイヨシノの2世）を地区内の緑地に移植する。

③緑地・公園オープニングイベント

緑地・公園の開園にあわせて、里親として育てていただいたシリブカガシの植樹を行うなど、地元住民、NPO の方々と一体となったイベントを実施する。

(注) クスノキ：戦前は巨樹 老木が市内随所に見られ、その重厚な趣は、人々の心を和ませたが、原爆でそのほとんどを焼失。しかし、生き残ったクスノキは、いち早く生命をよみがえらせ、市民に生きる希望と復興への力を与え、新生広島を象徴するものとして市の木に指定されている。



図10 街区公園予定地内に戦前から残るクスノキ

4. 最後に

本地区では、WS といった計画段階から地域住民、地域で活動する NPO の方々の参画を得、緑地・公園づくりに、歴史のある社寺といった歴史資源、二葉山の日本最大のシリブカガシの群生地、被爆樹木、NPO 法人で育てておられる桜の苗木など、地域特性、多くの地域資源を最大限に活かすことに広島市とともに努めてきた。ご協力いただいた方々に感謝し、平成 26 年 3 月に予定している開園をともに喜ぶとともに、当該地周辺が大きく生まれ変わったことは、緑地・公園のオープニングイベントにより市の内外へ周知する第一段になるものと思われる。

今後は、既に立地が決定しつつある建物施設のオープンや広島駅北口に整備される予定のペDESTリアンデッキ、駅前広場、自由通路の整備工事の竣工等によりまちの形が徐々に具体化していくこととなるが、これまでの取り組みやイベント等が起爆剤となって、近隣住民の方々と新たに二葉の里地区に進出する企業、入居される住民等との新たなコミュニティの繋がりと熟成、地域への愛着と誇りの育成に寄与することを期待したい。また、本地区は広島駅に近接しており、ボランティアガイドの方々の活動とも相まって、国際平和文化都市「広島」へ来訪される多くの国内外からの観光客の皆様が、当該地周辺にも立ち寄っていただくことを期待したい。

参考文献：

- 〈1〉 広島市ホームページ、「二葉の里歴史の散歩道の魅力を高める取り組み」
- 〈2〉 広島東区役所、「二葉の里歴史の散歩道散策マップ」
- 〈3〉 広島駅新幹線口 エリアマネジメント推進調整会議、「二葉の里地区まちづくりガイドライン」5、8ページ